

令和5年度 地域連携アクティブスクールの入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 65

千葉県立流山北高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

学ぶ意欲を持ち、ルールを守り、自立した社会人をめざし、自己の進路実現に意欲的に取り組む者で、次のいずれかに該当する生徒

- ア 学習活動や特別活動等に積極的に取り組み、自己の能力を向上させようとする強い意志がある者
- イ 部活動を3年間継続して行い、心身の鍛練に励む強い意思がある者

2 選抜資料

(1) 学力検査	3教科(国語・数学・英語)の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	評価者2名の個人面接 検査時間：5分
(4) 作文	字数：480字以上520字以内 検査時間：50分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔300点満点〕

評価項目	評価基準
ア 3教科の得点合計	3教科(各教科100点満点)の合計300点満点で評価する。 得点合計が45点以下の場合は、審議の対象とする。
イ 個々の教科の得点	5点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書〔185点満点〕

アの数値に、ウからオについて加点(上限50点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=1$ を乗じた数値で評価する。 第3学年の評定に1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 行動の記録	○が一つもない場合は、審議の対象とする。
ウ 特別活動の記録	「学級活動」及び「生徒会活動」で、学級委員長及び生徒会本部役員(会長・副会長・会計・書記等)や委員会委員長・副委員長の記述がある場合は加点する。
エ 部活動の記録	部活動を3年間継続した場合は加点する。 部長・副部長は加点する。
オ 特記事項	日本商工会議所主催珠算能力検定、実用英語技能検定、日本漢字能力検定、硬・毛筆書写技能検定、実用数学技能検定の3級以上は、その級に応じて加点する。
カ その他	「備考」、「総合所見」を含め、記載内容について問題があると判断される場合は、審議の対象とする

(3) 面接〔200点満点〕

2名の評価者が、次の5つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a(優れている)、b(標準的である)、c(問題がある)の3段階で評価する。

aを20点、bを12点、cを2点とし、2名の評価者の評価(各100点満点 計200点)を合計し、得点化する。2人の評価者の評価cの合計が3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望動機	志望動機を明瞭かつ具体的に述べている。
イ 中学生活の取組	授業や特別活動及び清掃等に積極的に取り組んだ。
ウ 入学後の意欲	高校生活(学習・部活動等)に意欲的に取り組もうとしている。
エ 自己把握	進路目標を持ち自己の長所・短所を把握し、それらを具体的に述べている。
オ 身だしなみ・態度	身だしなみ・態度及びマナーが適切である。

(4) 作文〔50点満点〕

2名の評価者が、次の2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、アはa（過不足がない）・b（過不足がある）の2段階で、イはa（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

アはaを10点、bを5点、イはaを15点、bを10点、cを2点とし、それぞれの評価者ごとに合計点（各25点満点 計50点）を算出する。合計点が14点以下の者は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 字数	指定された字数に対して過不足がない。
イ 内容	与えられたテーマに対して内容が適切である。 入学後の高校生活に対する意欲が見られる。 表現技法が適切である。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」、「面接の得点」及び「作文の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

〈総得点の満点の内訳〉

学力検査 の得点	調査書の得点		面接 の得点	作文 の得点	総得点
	評定（K=1）	加点			
300点	135点	50点	200点	50点	735点

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはいししない。

イ 入学許可候補者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。